

認知症を正しく理解しましょう(認知症の基礎知識)

認知症とは

認知症とは、脳の病気などいろいろな原因で脳の神経細胞の働きが変化したために、認知機能(情報を分析したり、記憶したり、思い出したりする機能)が低下し、普段の生活に支障をきたす状態です。症状の出方は、人によって様々です。

新しい認知症観

認知症の人は何もできないという「古い認知症観」ではなく、本人が認知症とともに希望を持って生きるという「新しい認知症観」を持って関わる必要があります。

認知症のタイプ(自動車運転でみられる特徴)

アルツハイマー型認知症

脳にアミロイドベータというたんぱく質がたまり正常な神経細胞が壊れ、脳が縮むことが原因です。

- ・物盗られ妄想やうつ状態
- ・時間や場所などがわかりづらくなる
- ・重度になるまで運動機能は保たれる

《運転の特徴》

- ・行き先を忘れ道に迷う
- ・駐車、幅寄せが下手になる



脳血管性認知症

脳の血管がつまる(脳梗塞)・破れる(脳出血)などの脳の血管障害によって起こります。

- ・意欲の低下
- ・感情のコントロールがうまくいかない
- ・片麻痺などの運動障がいを伴うことが多い

《運転の特徴》

- ・注意力の低下
- ・ブレーキ等運転操作が鈍くなる



レビー小体型認知症

レビー小体という異常なたんぱく質がたまり脳が縮むことが原因で起こります。

- ・幻覚、妄想
- ・初期のものの忘れは目立たない
- ・パーキンソン様症状(ふるえ・小刻み歩行)

《運転の特徴》

- ・注意力の低下
- ・ブレーキ等運転操作が鈍くなる



前頭側頭型認知症

脳の中の前頭葉(理性のコントロール部分)や側頭葉(聴覚や言葉の理解部分)が縮んで起こります。

- ・性格の変化(怒りっぽくなる)
- ・社会のルールが守られなくなる
- ・同じ行動を繰り返す

《運転の特徴》

- ・交通ルールの無視
- ・わき見
- ・車間距離が短くなる



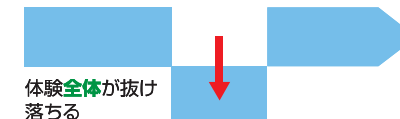
普通のもの忘れと、認知症によるもの忘れの違い

加齢によるもの忘れ



- もの忘れをしている自覚がある
- 人物や時間・場所まで分からなくなることはない
- 感情や意欲に変化はない

認知症によるもの忘れ



- もの忘れをしている自覚がない
- 人物や時間・場所まで分からなくなることがある
- 感情や意欲に変化が現れる(怒りっぽさなどが目立つ)

日常生活に大きな支障はない

日常生活に支障がある

認知症の症状を知りましょう(症状への対応)

認知症の症状には共通してあらわれる「中核症状」と本人の性格や生活状況、ケアの仕方などが影響して起こる二次的な「行動・心理症状(BPSD)」があります。「行動・心理症状」は人によってさまざまですが、適切な治療やケア、周囲の対応などで改善が期待できます。

中核症状 (治すことはできませんが、治療やケアによって進行を遅らせることは可能)

記憶障がい

新しいことが覚えられない。覚えてはいるはずの記憶を思い出すことができない。



見当識障がい

時間、日付、季節感、場所、人間関係などの把握が難しくなる。



実行機能障がい

旅行や料理など、計画や手順を考え、行動することが難しくなる。



理解・判断力の障がい

考えるスピードが遅くなる。同時に2つ以上のことができない。



本人のもともとの性格や素質

生活環境やケア、周囲との人間関係など

行動・心理症状 (精神的なストレスなどを取り除くことで症状を緩和することが可能)

- 妄想(現実には起きない思い込み)
- 幻覚(その場にはないものが見えたり聞こえたりする)
- 攻撃的な言動
- 道に迷う
- 無気力
- 便をいじるなど排泄の混乱
- 過食など食行動の混乱 など

